

メデイカルネットワーク

発行 東京女子医科大学東医療センター 〒116-8567 東京都荒川区西尾久 2-1-10
 電話 03-3810-1111 FAX 03-3894-0282 <http://www.twmu.ac.jp/DNH/index.html>

2012

No. 16

November

区東北部の災害医療体制



救急医療科

教授 磯谷 栄二

東京女子医科大学東医療センター救急医療科の磯谷でございます。日頃より、地域連携に多大なる御協力を賜り感謝いたしております。東京都では、昨年3月11日の東日本大震災の経験を踏まえ、平成23年12月から新たな災害医療体制の構築に着手しました。その一環として、私自身5月14日に区東北部地域災害医療コーディネーターに任用されました。地域災害医療コーディネーターの役割は、発災時に各区から任用される区コーディネーターの方と連携をとりながら、東京都災害医療コーディネーターに対して区東北部への医療資源の投入や搬送についての協力要請をすることにあります。有事の際の災害医療とは、平時の地域医療連携に基づくものであります。地域医療連携で養われたネットワークを活用して、有事に備えるべく災害医療に対して意見交換させていただく場を設けていこうと考えております。

本年6月以降の2度にわたる準備会を経て、8月29日には第1回区東北部地域災害医療連携会議を開催させていただきました。足立区・葛飾区・荒川区の医師会の先生方や行政の方々には、多大なる御支援をいただき感謝いたしております。会議では東京都福祉保健局からの東京都の新たな災害医療体制についての説明の後に、足立区・葛飾区・荒川区の代表の方に各行政区の災害医療体制について御報告いただきました。その後の質疑応答さらにはアンケート用紙に記された御意見等を踏まえ、現在第2回区東北部地域災害医療連携会議の準備を進めております。限られた時間内では意見交換も不十分と考え、“【区東北部医療圏地域災害医療連携会議】メーリングリスト”を開設いたしましたので、参加御希望の方は地域災害医療連携会議事務局

担当の東京女子医科大学東医療センターの楠岡(03-3810-1111 内線4434、kusujm@dnh.twmu.ac.jp)まで御一報ください。

私どもの施設では、本年5月から“達人に学ぶ”を合言葉に、毎月救急・集中治療研究会を開催させていただいております。本年度のテーマは、集中治療と災害医療です。また、本年12月19日(水)には、第12回城東救急医療研究会が開催されます。今回は、東北大学大学院医学系研究科 外科病態学講座 救急医学分野教授の久志本成樹先生に、「東日本大震災における被災地内の大学病院の対応」について御講演いただくことになっております。さらに平成25年2月9日(土)には災害医療をテーマに第21回城東地区医療連携フォーラムが開催されます。東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 全人診断治療学講座 救急災害医学分野教授の大友康裕先生に災害医療体制について御講演を賜り、北区・足立区・葛飾区・荒川区の医師会の先生方に各行政区の災害医療体制についてパネルディスカッションをお願い致しております。これらの研究会にもお時間の許す限り御出席いただき、皆様の御意見を拝聴できれば幸甚です。

当院では、去る11月6日に防災訓練が行われました。今年度の防災訓練では、より実践的な訓練となるように、シナリオをほとんど作ることなく行われました。写真は防災訓練に先立って行われたトリアージ講習会の模様と、今年度の防災訓練の一コマです。いずれこうした実践的な防災訓練を区東北部全体で行いたいと考えております。その節には、どうぞご協力の程よろしくお願いいたします。

私は、地域連携なくして救急医療・災害医療は成り立たないと確信いたしております。本年2月に当院に赴任いたしまして以降、区東北部二次医療圏の先生方には、円滑な救急医療業務に多大なる御協力を賜っておりますことに、今一度御礼申し上げます。



トリアージ講習会



防災訓練

看護部だより1

助産師外来 “ひまわり” 満1歳

産婦人科病棟助産師一同

平成23年9月から助産師外来“ひまわり”を開設しました。

助産師外来とは、助産師が妊婦健診と保健指導を行う外来です。

一生に何度とないお産を、自分らしく満足のいくものにするには、妊娠中から自分の体と向き合い自己管理していくこと、お腹の赤ちゃんに想いを向け赤ちゃんを信じること、家族全員で赤ちゃんを迎え入れる準備ができることが大切になります。

私たち助産師はそのサポートを微力ながらさせていただきたいと思っています。

助産師外来は1人30分という枠で健診をしながらゆっくり話が聴けるようになっていきます。例えば「先生に体重が増えすぎだと言われたけど、食べたくてしょうがないんです」「腰が日に日に痛くなって家事も大変です」と話す妊婦さんに、どうしたらいいのかわかる生活習慣とその方の考え方を聴き、解決策を一緒に考えていきます。時には家族の方へ指導をしたり、栄養士さんに栄養相談の依頼をすることもあります。

また、助産師外来中に母児に異常が認められた時にはすぐに医師の診察が受けられるよう医師との連携は十分行なっております。



おかげさまで利用された方からは、「初めての出産で不安なことがいっぱいありましたが、助産師さんが親身になって話を聴いてくれて優しくアドバイスをしてくれたので気持ちが楽になりました」「体重を増加幅内で抑えられました」「入院時助産師外来でお世話になった助産師さんが顔を覚えていて下さり、とても心強く思えました」など嬉し声をお聴きしています。

現在は毎週火曜日午後からのみ外来となっておりますが、今後はその枠を広げて、できるだけ多くの母子に寄り添っていきたく考えています。

助産師一同心よりお待ちしておりますので、是非ご利用ください。



うちの達人!

重篤な患者さんを家族とともに

急性・重症患者看護専門看護師

工藤 順子



私は2010年に急性・重症患者看護専門看護師の認定を受け、生命の危機的状況にある重症患者さんやご家族に最善の医療が提供されるよう、看護上の諸問題に取り組んでいます。現在は院内を横断的に活動するなかで、実践のみならず高い倫理観に基づいた医療の展開において看護職をはじめ医師や他のコメディカルとも連携を深めています。

さらに院外では、看護系教育機関での講義、心肺蘇生法講習会のサポートなど社会的な活動にも参加しています。



痛みで苦しむ患者様に寄り添いたい

がん性疼痛看護認定看護師

立野 友絵



緩和ケアチーム専従看護師をさせていただいております。がん性疼痛看護認定看護師の立野と申します。平成24年4月から全科外来・病棟を対象としたコンサルテーション方式の緩和ケアチームを立ち上げました。痛みなどの身体的苦痛や精神的苦痛のケア、心理支援・退院調整などを中心に活動させていただいております。これからも痛みで苦しむ患者様の苦痛を緩和することができるよう日々精進してまいりますのでよろしくお願いいたします。



外来ケアルーム報告 運用状況・実績報告



外来化学療法室

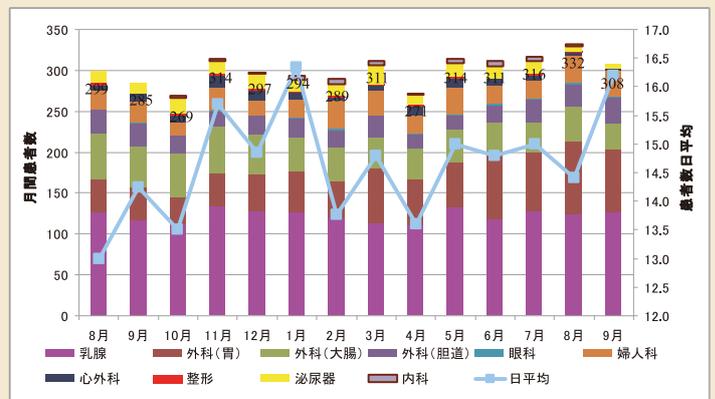
准教授・外来ケアルーム室長
吉松 和彦

外来ケアルーム（外来化学療法室）は今年の夏で開設から2年を経過いたしました。がん診療を行う各科の先生方や薬剤部、看護部の皆様の協力のおかげをもちまして順調に利用数が増加しています。また、利用されています患者さんにも安心して治療を受けていただいております。

開設当初は月間総利用数が250件程度で、外科の診療を受けた消化器および乳腺の患者さんが大半を占めていました。昨年からは月間の総利用数も270-300件まで増加しました。これは婦人科、泌尿器科、呼吸器外科（心臓血管外科）の患者さんの利用の増加と相まってのことで、外来ケアルームが院内で徐々に認知されてきた証といえます。また、がんの患者さんだけでなく、眼科や整形外科の患者さんへの生物学的製剤などの投与もあり、今年度に入り月間総利用数は300件を超え330件を突破する月も出ています。

投与薬物が抗癌剤ということもあり、安全への配慮が不可欠で、投与中のアナフィラキシー等にもマニュアル通り専属スタッフが対応しており、安全に投与が遂行されています。スタッフも少しずつ充実が図られており、今後益々の利用数増加に対応していこうと考えています。近隣の先生方におかれましても、抗癌剤

治療や生物学的製剤投与のことでお困りのことがございましたら担当科の先生を通じ、お問い合わせいただければと思います。



外来化学療法件数の推移（2011年8月-2012年9月）

新生児中枢性呼吸機能検査



新生児科

准講師 邊見 伸英

新生児特発性無呼吸発作は全出生の約0.5%で起こるといわれています。胎児発育遅延児や胎内でストレスのあった児などでは、さらにこの危険性が高まるとされています。現在のところ、新生児特発性無呼吸発作を正確に予測し得る方法はありません。我々は、炭酸ガス換気応答試験が中枢性換気不応による新生児の無呼吸・低換気の予測に役立つのではないかと注目しています。

炭酸ガス換気応答試験とは中枢性呼吸機能評価法の1つであり、二酸化炭素の体内貯留に伴う分時換気量の増加の割合を測定する試験です。この試験により延髄の呼吸中枢が正常に機能しているかを判定できます。これまで成人領域では多くの試験がなされ、正常値等の報告がありますが、新生児領域では児の協力が得られないなどの測定方法の煩雑さのためほとんど行われ

ていませんでした。当科では企業と共同で開発した装置を用いて、再呼吸法による新生児の炭酸ガス換気応答試験を行っています。この検査の利点はベッドサイドで簡便に施行でき、軟らかいマスクを使用するため安全に検査を施行することができることです。この装置を用いて新生児の炭酸ガス換気応答試験を施行し、研究をしたり臨床に応用したりしています。研究としては正常新生児の正常値を求めたり正常新生児と病的新生児の値を比較検討したりしています。臨床応用としては無呼吸発作児の原因検索や退院時期の決定に用いたり、人工呼吸器からの離脱時期の評価に利用したりしています。

このように炭酸ガス換気応答試験は、新生児を管理するのに有用であり臨床的意義が大きい検査です。また、無呼吸発作のスクリーニングとなり得れば、より安全に安心して自宅で育児ができるのではと考えます。

当科では引き続き最先端の医療と地域周産期医療への貢献を両立させながらがんばっていきたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。

第20回城東地区医療連携フォーラムを終えて

耳鼻咽喉科

教授 須納瀬 弘

今回のフォーラムのテーマは関連する診療科が多岐にわたる「めまい」をテーマとさせていただきました。ご存じのように、めまいの診断は画像に所見が写らなければ患者さんの訴えと生理的な検査に頼るほかはなく、内耳ばかりではなく末梢の知覚障害、中枢機能の低下、心因などが複雑に絡み合うため、捉えどころがない難しい症候として苦手意識を持たれている先生方が多いと思います。今回は第20回の区切りとなる会となり、めまいに関する診療する側のモヤモヤを少しでも晴らしていただけたらと考え、新たな試みとして教育的なお話を聞いていただくことをメインに据えてみました。当院の各領域でめまいの患者さんを診察されている先生方に、めまいに関する検査やリハビリテーション、成因や画像診断などについてお話しいただき、その中で各科が果たすべき役割が明らかになりました。さらにめまいに造詣の深いご開業の先生方（荒川区南千住つのだ医院 角田太郎先生 足立区 阿部メディカルクリニック 阿部聡先生 北区 いいだ耳鼻咽

喉科 飯田正樹先生）に、それぞれのご専門とされる分野での問題症例や診断の難しかった症例をご提示いただき、診断や治療のポイントやヒントが得られるような内容をお話しいただきました。どの先生方のお話も示唆に富んでおり、大変興味深く拝聴させていただきました。お話しいただきました諸先生方の力量と存じますが、とても充実した内容となったと思います。ご多用の中でお集まりいただいた先生方に心より御礼申し上げます。



平成24年7月7日 ホテルラングウッドにて

今年度入局して



小児科

医療練士 高橋 健一郎

平成22年より当院での初期臨床研修2年間を終了し、今年度小児科に入局させて頂きました。入局後は、肺炎、気管支喘息といったいわゆるcommon diseaseから急性脳症や多発性硬化症といった大学病院ならではの症例まで幅広く経験でき、毎日充実した研修を行っています。地域の子供たちのために微力ながら貢献できるように、日々研鑽していきたいと思っております。どうぞご指導ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。



産婦人科

医療練士 川上 恵

平成20年に女子医大を卒業後、当院の産婦人科コース第1期生として初期臨床研修を行いました。学生の臨床実習で初めて分娩に立ち会った際の感動が忘れられず、産婦人科医になることを決めました。産婦人科医としての後期研修はこれまでよりも責任が重く感じることもありますが、やりがいや喜びがとても大きいものと感じています。少しでも患者さんに寄り添い、地域の女性の健康に携われるよう、日々精進して行きたいと思っております。

地域連携室からのお知らせ

「城東地区医療連携フォーラム」

第21回 平成25年2月9日（土）午後3時より（予定）
テーマ：「救急・災害医療」、その他

第22回 平成25年7月13日（土）午後3時より（予定）
テーマ：「未定」、その他

場 所：第21回、22回共にホテルラングウッド
お問い合わせ先：地域連携室（内線6154）又は業務管理課（内線4433）

編集後記

今年を振り返り様々な事がありました。得に印象に残ったのは、京都大学山中教授がiPS細胞の作製でノーベル生理学・医学賞を受賞した事です。夢のような細胞で、再生医療への研究が進み、一日も早く医学に応用できる日を期待しております。

次号は平成25年5月を予定しております。

（地域連携室 堀）